

240 誌 100 号発刊に寄せて(PART-2)

de J A I R I Z

本号も 100 号発行記念号に準ずる発行との事なので引き続き、古いお話で恐縮ではありますが、当局の無線への興味を持ちはじめるときっかけの頃からのことを記してみたいと思います。

小学生の頃はいわゆるラジオ少年、ゲルマニウム・ダイオード (SD-46 だったか) を使った鉱石ラジオ作りから始まりました。

親戚の家へ釣竿アンテナとそれを持ってゆくと、『ホーオ、電源が無いのにラジオが聞こえるンかい』等と感心されました。

その後、S T 管で構成された「並 3」や「並 4」ラジオ、そしてトランジスタラジオや T V 受像機(真空管式)などをいじり回していた訳です。時効なので明かしますが、高校 1 年の頃は、数(W)の出力の送信機で家の外に、程々大きい L 型ワイヤーアンテナを上げて、隣町の友人達と無線ごっこもしていました。そして高 2 のときに同級の有志と受験し、当時の「電話級」ハムの仲間になりました。丁度その年の 6 月に新潟地震があり、アマチュア局が「非常通信」をしていました。

その時、偶然に我家の五球スーパーラジオで 7MHz 帯を聞きました。商業放送とは異なっていた通信で、これが『アマチュア無線なのだ!』と、なぜか感動した覚えがあります。

開局は、その年の 9 月頃のはずでしたが、申請書類の不備のため再提出となり、結局は 11 月の免許となりました。順調通りなら J A 1 Q ** というコールになっていたはずです。

送信機は自作して終段 S T 管 (UZ-42) で実力は送信出力 5 W 程度の AM でスタートしました。受信機も自作で、一応、当時流行の高 1 中 2 (高周波 1 段増幅 + 中間周波 2 段増幅) のスーパーヘテロダインでした。3.5~50MHz まで発射したかったのですが、実際の所、回り込み現象が酷くて 7MHz までが精一杯でした。当時、50MHz まで自作できる人は技術力がすごいんだな? と思っていました。第 1 声

は、ローカルの OM さんとスケジュールを組んで電波を出しましたが、ハム音ばかりの変調で相手局は了解できなく交信成立に至りませんでした。これは変調管のカソードに電解コンデンサを付け忘れていた為でした。そして、改修後、交信成立！ 無事に 1st-QSO を記録することができてホッとしたものです。

初めは 2 個のクリスタル (FT-243 型) の固定周波数で始めましたが、その後バーニヤダイヤル装備の VFO を製作。しかし、温度特性と機械強度不足で QRH(周波数安定度)がひどく最低でも 20~30 分はヒートラン(予熱)が必要でした。その頃は、学校の勉強はそっちのけでハム道に打込んでいました。早朝や深夜もヘッドフォンをつけて声を潜めて CQ、CQ とやっていました。ふた間の小住宅でしたので、小声でもうるさいとのクレームで運用が難しくなりました。それなら CW が良いだろうと、CW を覚えてこれまた一生懸命でした。が、キーをたたくと出るコツコツという音が深夜などは結構気になるらしく、これもクレームが来てしまいました。結局、皆の邪魔にならない昼間しか HAM ができず、ということで学校のクラブ局に入りびたりの生活をしてきた記憶があります。電気科だったので電力系への就職を希望していましたが、これが縁で、長きにわたって勤める事となった某無線会社に就職することになった訳です。(アマチュア無線浸りだった為か、担任の先生からこの会社を第 1 に推薦され、これを受けないと他の会社を推薦はできないと。...当時の先生は「聖職」、先生の声は「天の声」、逆らえませんでした。hi hi)

就職、上京後も HAM 熱は冷めやらず、寮の軒下に密かにワイヤードイポールを展張してオンエアもしました。又、徳島・阿南市出張時には TS-510(トリオ) (電源と組で約 20kg) やアンテナ線、同軸ケーブル等を持参しました。そのほか本業の測定器、工具類等も持っていたので「大荷物」だった訳でした。列車移動であったのに、今思えば何でそこまで出来たのだろうかと思議な位です。又、仕事の性質上、全国エリアで飛び歩いていましたので、アマチュア局らしきアンテナを見つけると、飛び込み営業の如く OM 諸氏のご自宅を突然お訪ね

するなど...と、普段の小心・無口な(hi)自分がどこかへ行ってしまった様な大胆な行ないでした。5 エリアの医師会ハムクラブの会長さんのお宅だったり、8 エリアの2文字コールの大 OM さん宅や CB 無線の漁師さん宅だったり、そうとう数のお宅を訪ねたはずですが、記憶のかなたに消えています...hihi。

その頃は今の様なセキュリティ上の問題もあまりなく、初めてなのに歓待され、部屋に上がって無線室を拝見させてもらったり、ラグチューに花が咲き、帰りには持ちきれないほどのお土産を頂いたり...と、とにかく良い時代でした。

.....

お時間になりました様で、それでは今回はこの辺で失礼します。

(END)